

あおば学校支援ネットワーク

新入生クラス支援活動記録



平成 20 年 4 月 30 日

目次

I	はじめに	2
II	新入生クラス支援活動について	2
	(1) 趣旨	2
	(2) 内容	3
III	実践記録(活動記録より)	4
IV	感想	5
	(1) ボランティアから	5
	(2) 荏子田小学校 宮部校長先生より	6
	(3) みたけ台小学校 芦垣校長先生より	7
V	まとめと今後の方向性	7

I はじめに

「あおば学校支援ネットワーク(ASN)」は、学校・教育支援活動に関わるボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークとして、子どもたちの視点にたったより良い学校教育活動を支援することを目的に、平成17年4月に結成されました。結成以来、あおば学校支援ネットワークでは、学校支援ボランティアの紹介活動やセミナーなどのボランティアスキルアップ事業等を通して学校教育に関わって参りました。さらに、地域の教育力が学校教育に及ぼす影響に注目し、昨年度は新たに地域の大人同士がコミュニケーションを深めて地域社会に関わるきっかけとなることを目的に、「文部科学省受託 学びあい・支えあい地域活性化事業」を行いました。

あおば学校支援ネットワークでは、今年度の重点テーマのひとつとして、教育ボランティアのコーディネート活動を推進しています。このたびの荏子田小学校とみたけ台小学校における新入生クラス支援活動はその一例で、平成20年度最初の事業として実施いたしました。

II 新入生クラス支援活動について

(1) 趣旨

平成18年度から始まった本活動は3年目を迎えました。当初より行ってきました荏子田小学校に加え、今年度はみたけ台小学校でも行いました。この活動では、入学式の翌日から約3週間、始業から下校まで、1年生の学級に教育ボランティアを配置し、担任の補助的な役割を担っていただきました。これによって、入学したばかりの新入生が安心して学習や活動に取り組むことができるようにすることをねらいとしています。

学校支援ボランティア活動では、「学校教育の充実」や「地域人材の活用」ばかりではなく、地域と学校が互恵的な関係であることが重要です。そこで、学校と地域の連携の視点から、日々の子どもたちの学校生活を豊かなものにするという共通の目的のもと、先生とボランティアが時間や場面を共有することによって、地域と学校がともに手を携えて学校教育に関わる実践的なモデルケースとして本活動を位置づけました。

(2) 内容

目的	一年生の入門期における学校生活を円滑に行うための教育的支援を目的とする。
期間	荇子田小:平成20年4月8日(授業の開始日)から4月30日までの4月25日を除く16日間 みたけ台小:平成20年4月9日(授業の開始日)から4月30日までの4月28日を除く14日間
時間	8:30~2:00 (朝の会から下校まで) ただし 給食がない日は12時30分まで。 都合により、中休みで交代することもある。
場所	各学校校内(1年1組、2組、3組の各教室及び特別教室)
ボランティア	あおば学校支援ネットワークからボランティアを紹介する。
人数	荇子田小:各学級で、最大1日1人(朝の会から下校まで)か2人(中休みで交代の場合)が活動する。 みたけ台小:1年生3クラス全体で1~2名
コーディネーター	荇子田小:水谷 みたけ台小:吉田、藤田
活動内容	生活支援、給食補助、掃除補助、学習支援、下校支援など担任と相談の上決定する。
謝金	無償
交通費	実費 ただし上限は千円まで。
給食	学校で準備する。
ボラ保険	ボランティア保険(各自負担)
持ち物	室内用の靴、外用の靴、名札(学校が用意) エプロン・三角巾・マスク(給食用)
日程	3月初~ ボランティア募集 3月中 ボランティア日程調整及び学校へ連絡 3月21日 研修会・説明会(10時~12時 @アートフォーラムあざみ野) 4月初 学校長面接と担任との打ち合わせ

	<p>4月8日～30日 活動期間</p> <p>5月2日 意見交換会(10時～12時 @アートフォーラムあざみ野)</p>
注意事項	<p>分からないことは自分で判断しないで、担任に聞く。</p> <p>特定の子どもに対する支援ではなく、クラス全体の子どもを支援する。</p> <p>学校生活で身に着けなければならないスキルを習得するように支援を心がける。</p> <p>どの子どもにも平等に接する。</p> <p>丁寧な関わり方(言葉使いなどを含む)をする。</p> <p>先生批判はしない。</p> <p>守秘義務を守る。</p> <p>活動のしやすい服装(ジーンズ不可)・履物</p>

Ⅲ 実践記録(活動記録より)

学習支援

- ・ 身体測定を早く終わった子どものプリント学習の支援。
- ・ 体カテストで立ち幅跳びの計測やソフトボール投げの球拾いをした。
- ・ 体育の時間に「うんてい」の見守りと指導補助をした。
- ・ 朝の時間に語りと絵本の読み聞かせをした。
- ・ 歯科検診を早く終わった子どもに手遊びや短いお話をした。

生活支援

- ・ 配膳台を拭く時に雑巾がきつく絞れなかったので、教えた。
- ・ 名札の安全ピンが付けられなかったので、手順を教えた。
- ・ 授業の合間にトイレに連れて行った(トイレへの付き添いは複数回)。
- ・ トイレが間に合わなかった子どもの処理を手伝い、その後保健室に連れて行った。

保健・健康

- ・ 校庭で転んでひざをすりむいたので保健室に連れて行った。椅子に座った状態か

ら倒れたので、保健室に連れて行った。(保健室への付き添いは複数回)

- ・ 体重測定の結果をした。

安全・見守り

- ・ 下校の列を解散場所まで引率した。
- ・ 学校探検の際に給食室前でチェック係りをした。
- ・ 避難訓練で防災頭巾のかぶり方が分からなかったり、机の下にもぐることを忘れていたりしたので、声を掛けた。
- ・ 下校時にグループ別に並ぶのを補助した。

給食指導補助

- ・ 給食室に給食を取りに行き、食缶が重かったので一緒に持った。
- ・ 給食の汁物の配食をした。
- ・ 野菜ジュースの紙パックを潰すのを手伝った。
- ・ 牛乳パックの潰し方を教えた。
- ・ 給食の汁物の盛り付けをした。

IV 感想

(1) ボランティアから

～ 最初は戸惑いや不安。でも、活動を重ねていくうちに・・・ ～

- ・ 教室に入ることで体が初めてだったので、最初は戸惑った。どこまで関わったらよいか迷った。回数を重ねると様子が分かってきて、自然に足が教室に入った。
- ・ 体力的に自信がなかったが、楽しかったので一日通して活動することができた。
- ・ 一年目は何をやらいいか、役に立っているのか分からず、肩肘張ったが、3年目の今年には慣れてきたこともあり、気張らずに楽しくできた。

～ 「ボランティアの主食は、感謝のことばや感動の瞬間」 ～

- ・ 担任の先生と校長先生から深々と感謝され、明日からのボランティアの不在を心細げに話された。その言葉で役に立てた感じがしてよかったと思った。
- ・ 給食の準備や着替えなど子どもが色々なことがどんどん上手になっていくことに感動した(子どもの成長に驚く声が多くあった)。
- ・ 子どものかかわりが一番の動機で、今後も先生の手助けがしたい(今後も関わり

たいとの声が多くあった)。

- ・ 子どもたちの先生を見る目が一途でかわいらしく、意欲に満ちているのに感動した。
- ・ 密な会話や対応が必要な子どもがいることを感じた。先生は個別で対応しきれないので、この活動は有効だったと思う。

～ この活動に対する提案もいただきました。 ～

- ・ 今年は同じ学級で固定的に活動した。担任の指導の様子が分かり、特に指示がなくても動くことができるので活動しやすい面があった。一方、広く色々な子どもと話をする機会がなかった。
- ・ この活動が他校に広がった場合の対応やまた予定していたボランティアが休むなど突発的なことにどのように対応するのかが課題だ。継続性が大事なので、ぜひ続けてほしい。

(2) 荏子田小学校 宮部校長先生より

荏子田小学校では、担任の先生方がボランティアを歓迎しており、5月からのボランティアの不在を心細く感じているくらい大変頼りにしました。ボランティアを歓迎して受け入れることができる理由については、教育ボランティアのコーディネーターの存在が大きいことが上げられます。あおば学校支援ネットワークで研修されている方であることや信頼できるコーディネーターの推薦であるので、受け入れが安心です。今回ボランティアの方々には、子どもたちの怪我やボランティアの急なお休みによる空きについて心配していただき、ありがたく感じました。今後も機会あるごとに子どもたちの成長の様子を見守って欲しいと思います。

学校支援ボランティアは、担任の指導方針・プロとしてのプライド・職責などを理解していただき、学校運営や子どもの関わりにプラスであることが重要であると考えます。経験を重ねていくことによって、ボランティアの方が、「いるだけで安心する存在」から、「子ども一人ひとりを理解して、子どもとの関わりを深められる存在」になることを期待します。

(3)みたけ台小学校 芦垣校長先生より

今年度の担任は、ベテランと中堅に若い先生が加わった構成で、そこへ様々な立場の大人や上級生が新入生と関わりました。6年生のお兄さん、お姉さんが朝の会で面倒をみて、保護者は給食の手伝い、あおば学校支援ネットワークから来られた方々は優しい存在のおじいさん、おばあさんが教室内にいてくれるような安心感を与え、大学生ボランティアはそれよりも若い世代の大人として、家庭と同じような構成や雰囲気の中でスタートしました。ボランティアの方々のサポートもよい具合で、一年生によい環境であったのではないかと考えます。

V まとめと今後の方向性

今回の活動は、内容については前年度までとほぼ同様でしたが、新たに先生とボランティアの方の円滑なコミュニケーションのために、始業前と下校後に打合せを取り入れました。朝は子どもたちの様子を見ながら、各教室で先生がその日の予定を説明し、放課後はボランティアからその日に起こったことや気になったことを先生に報告しました。授業の内容については当然のことながら、子どもが困っていた様子から、子どもとのささやかな会話まで様々なことが話題になりました。そこには、学校支援ボランティア活動が単なる「地域人材の活用」ではなく、子どもを中心に、顔を合わせ、一緒に考え、行動する大人たちの姿がありました。

学校支援ボランティアに象徴される学校と地域の協働は、それに関わるすべてのものにとって、お互いに利益や恩恵を与えあう関係であることが重要です。この協働におけるもっとも重要な理念が、「教室にいると安心する存在」から、より積極的に「子ども一人ひとりを理解し、関わろうとする」ボランティア側の意識の変化と、ボランティアの方とその活動を尊重し、さらには学ぼうとする先生側の謙虚な姿勢に現れていました。ボランティアと先生が子どもの健全な成長という同じ思いを分かち合い、両者が対等に話し合う場としても、本活動が有益であるといえるのではないのでしょうか。あおば学校支援ネットワークは、今後も本活動を地域と学校の協働による学校教育活動の一例として発信してまいります。